

いじめ防止の取り組みをさらに一歩進める

～いじめ対策サポートチームの結成、予防的な視点に基づくいじめアンケートの取り組み～

いじめ問題が発生した際、よく取りざたされるのは、「学校の隠蔽体質」です。校長や教育委員会が、マスコミからの質問に遭い答えに窮する場面の映像が流れたり、いじめを否定した学校に実はいじめがあったと報道され批判の対象となったりする場面を見かけることはまれではありません。その場面があまりに強調されすぎ、あたかも全ての学校が隠蔽体質をもっているかのごとく語られてしまうのです。

私は、ほとんどの学校において、この問題に真摯に向かい合い適切な対応をしていると考えています。しかしながら、プライバシーの壁があり情報が内部にとどまってしまうため、不安が増幅したり噂が一人歩きしたりするのです。特に、近年は「SNSの急激な広がり」により、その傾向に拍車がかかっていると強く懸念をしています。

本校は、「いじめ防止に関する基本指針」を作成すると共に、校内組織に対策委員会を位置づけ、いじめ問題への対応に取り組んでいます。6月の全校朝会では、「いじめをしてしまった児童の苦しみ」をテーマに校長講話を行いました。来年度、さらに一歩踏み込んだ以下2点の取り組みを進めていきます。

① 「いじめ防止対策サポートチーム」の結成

外部機関の方々とチームを作り、より手厚いいじめ問題への対応を図っていきます。

○組織構成： 【校内】 校長、副校長、生活指導主任、いじめ防止担当教員、養護教諭、スクールカウンセラー
【外部】 保護司、主任児童委員、在校生の保護者、卒業生の保護者（匿名）

○取り組み事項： いじめ問題への対応の年間計画の周知、取り組みへの評価
いじめ防止の取り組みや調査の結果についての共有
深刻ないじめ発生時の協議、事実関係の聴取への立ち会い、チームによる対応
関係児童への心のケアに関する関係機関との接続 など

② 「予防的な視点に基づくいじめアンケート」の取り組み

アンケートを**毎月**実施していきます。アンケート内容に予防的な視点（答えながら自分の行動をふり返る形式）を加えます。付け加えた項目は、以下の3つの内容です。

○より具体的な内容を加えます

「話をしたり近くを通ったりしたとき、周りが何となく聞こえないふりをしたり避けたりする」案外、このような行動をいじめとは感じていない子供は少なくありません。ふだんの生活をより具体的に振り返ることで、いじめへの抑止力が働くという効果があります。

○メールやSNSに関する項目を追加しました

「メールやSNSで、悪口を書いたり、他の人の悪口を読んだりしたことがある」この項目を入れることで、ネットでのいじめが大きく減少したという前例があります。

○被害を受けた視点だけではなく加害をした傍観をしたという視点を加えました

「友達がいやなことをされている時一緒にしたことがある、見たのに見ないふりをしたことがある」いじめは加担することはもちろん、見て見ぬふりをすることも絶対にいけないことを毎月振り返る機会を設けます。

アンケートの結果をまとめて、学校の具体的な取り組みとともに積極的に発信することも重要と考えています。この問題を解決する基盤は、ふだんからの学校と保護者の信頼関係の構築であるからです。いじめ防止の具体的な取り組みを知っていただくことは、学校の信頼を高めることにもつながると考えています。